

# KG JOURNAL

関西学院通信 [関学ジャーナル]



**特集**

*Special*

世界市民を育む、学びがある。

## 社会の中で成長! 実践型教育の魅力に迫る

数字でみる関学

体育会の全国と関西の優勝回数

突撃! KG CLUB

文化総部 甲山落語研究会

2016.1.15

250号



# 学長のポケット

## 実践型教育で現実の問題に立ち向かう力を

学生の皆さんは、それぞれの学部において専門的知識やスキルを身につけるために、日々勉学に励んでいることと思います。世界には、環境問題、貧困問題、エネルギー問題、民族対立など解決しなければならない課題が山積しています。これらの問題のどれをとっても、解決策が簡単に見つかるものではありません。また、これらの問題を解決するのに、専門知識の修得は必要条件ではありますが、十分条件ではありません。

なぜならば、社会に出たとき直面する課題は、問題の本質が見えない、さらに問題の所在さえ分からないものがほとんどです。また、何が問題かが判明しても、問題解決の糸口すら見いだせないこともあります。このような場合、知識をいくら集めても解決策が見いだせないものです。問題同士が複雑に絡み合っていることもあります。それら一つひとつ分解・分析しながら問題の所在と本質を明らかにし、解決策を選ぶ作業が必要となります。

まさに、問題発見能力、問題解決能力が問われます。これらの能力を身につけるためには、現実の課題に主体的に立ち向かうことが必要です。つまり、実践的な現実の課題を対象とした学びの中でしか、これらの能力は鍛えられないと思われます。このための訓練の場が、まさに実践型教育(ハンズオン・ラーニング)であり、皆さんが、積極的にハンズオン・ラーニング・プログラムに参加して、問題発見能力や問題解決能力を鍛えることを心から期待します。

(学長・村田 治)

### 表紙人

柴田 和果さん  
社会学部3年生



体育会42部・約2,400人を統括し、体育会活動の推進と発展のため企画、渉外、編集、会計、庶務を担う体育会学生会本部で、女性初の学生本部長に就任した。「明るさや親しみやすさが私らしさ。積極的に各部の試合や練習に足を運んで、身近な存在の本部長になり、これまで以上に一体感のある体育会にしたい」と笑顔を見せる。

中高時代は陸上部の中距離選

手として活躍した。関学大入学後は、「新たな競技や活動に挑戦したい」と庭球部にマネージャーとして入部。1年生の夏にトレーナーに転向し、選手の体のケアや筋力トレーニングの指導などを行っている。

1年生の冬、体育会行事で、体育会の各部員を引っ張る学生本部の先輩の姿に憧れて、学生本部入りを決めた。入部後は、庭球部との両立に困難を極めた時期もあった。それでも切磋琢磨してきた仲間の支えや、担当した全体会員が出席し体育会の卒業式ともいわれる体育会功労賞授与式の成功で自信をつけた。

転機は2年生の冬。各部のリーダーが2泊3日で議論するリーダー

ズキャンに参加し、「日本一」「関西制覇」など、リーダーたちがそれぞれの部に懸ける熱い思いに心を打たれた。「各部の目標達成や体育会全体の躍進にもっと貢献したい」と学生本部長になることを意識。3年生では関西大との定期戦「総合関関戦」の運営などで経験を積み、各部とのコミュニケーションや会議にも精力的に取り組んだ。その後、新幹部を決める時期となり、持ち前の挑戦心で志望。学生本部の全員一致で抜擢された。

「『女性初』というありふれたフレイズを逆手に取って、良い意味で目立っていきたい。積極的に関学大体育会の魅力を広めていきます」と意気込む。

# KG JOURNAL

関西学院通信 [関学ジャーナル]

## CONTENTS

No. 250

- 1 学長のポケット  
表紙人
- 2 特集  
世界市民を育む、学びがある。  
社会の中で成長！  
実践型教育の魅力に迫る
- 9 就職の窓  
就活本番！キャリアセンター  
支援プログラムの活用を！  
シューカツに勝つ
- 11 ひととひと
- 13 Research & Research  
文学部 田和正孝ゼミ  
理工学部 中後大輔研究室
- 15 突撃！KG CLUB  
文化総部 甲山落語研究会
- 17 My favorite KG  
カピト・ケヴィンさん  
(ドイツ)  
GO GLOBAL!  
青木 萌夏さん(国際学部2年生)
- 18 数字でみる関学  
体育会の全国と関西の優勝回数
- 19 Campus News  
アンガスのLet's TRY!  
関学カプセル  
学院通信
- 24 世界の街角から  
フランス 西川 由里子さん
- 25 Libraring  
勉強だけでなく  
旅行の計画にもお役立ち！
- 26 聖書に聞く  
社会学部宗教主事 打樋 啓史





# 社会の中で成長! 実践型教育の魅力に迫る

関西学院大学では、教育現場において社会との関わりを重視し、さまざまな実践型教育(ハンズオン・ラーニング)プログラムを実施してきました。企業や団体、自治体などと連携した活動の中で、学生たちはどのように成長していくのでしょうか。2015年度に開講されている授業やゼミ、実践型教育の意欲を高める新たな授業などを通じて、その魅力や学生のやりがい、教員の狙いなどを紹介します。

**特集**  
*Special*  
世界市民を育む、学びがある。



# 大丸梅田店との食品開発・販売



①大丸梅田店の店頭で実施したアンケートとインタビュー調査。120人の女性を対象に行った ②試食会では各ショップと遠慮なしで話し合い、より良い商品を目指した ③店頭販売では客の流れや反応、商品の売れ行きを実体験

マーケティングリサーチ、消費者行動論を専門とする石淵順也教授のゼミ生が大丸梅田店と連携し、弁当やスイーツなどの商品開発に励む産学協同企画。2014年に始まり、15年は「働く女性を笑顔にする」をテーマに取り組んだ。ゼミ生は6月、同店店頭で120人の女性を対象に、マーケティングの手法を用いて、買い物行動や消費行動についてアンケートやインタビューを実施。その結果を基に分析や議論を重ね、食べるシチュエーション、食材、サイズ、価格、完成図などを具体的に考案し、商品案を各ショップに提案した。2度の試食会も実施。ショップと意見交換を重ねて、消費者の心を動かす商品開発を目指した。商品は10月7日から20日まで発売し、10日はゼミ生が各店頭で販売。販売状況や客層、消費者の生の声などを実体験で学んだ。

## DATA

- ▶ 管理部署 / 商学部・石淵ゼミ ▶ 履修期 / 通年 ▶ 単位 / 4単位 ▶ 履修基準年度 / 4年生 ▶ 担当教員 / 石淵順也教授 ▶ プロジェクト参加者 / 18人 ▶ 連携団体・企業 / 大丸梅田店と各ショップ

## 消費者の本音を拾い上げ 生活を豊かにする商品の開発を

マーケティングは社会科学であり、教室で理論や手法を勉強しただけでは意味がありません。知識は実際に使うことによって、本当に自分のものにできるので、石淵ゼミでは現場である企業と連携する機会を意識しています。

この企画を通じて、ゼミ生には好循環が生まれています。各ショップの方々を納得させるために、教科書で専門知識をあらためて学ぶゼミ生がたくさんいました。要

は自主学習の時間が増えたのです。この効果には驚きましたね。

また、時間をかけて苦労したからこそ、自分たちの提案に自信を持っていると感じました。実際に大丸梅田店や各ショップの方々からは「学生のストレートな意見が聞けてうれしい」「学生の発想はユニークで良い刺激になる」などと好意的に感じてもらえました。

マーケティングは消費者の抽象的なニーズを探り、生活での問題解決や夢の実現に貢献します。企業よりも消費者に近い立場の学生が調査することで、消費者により親近感を持って話してもらえ、消費者の本音を拾い上げ、企業に生かしてもらうことで、生活を豊かにする商品の開発に貢献できると考えています。



石淵教授

## 店頭で商品が売れる光景に達成感

より良い商品を開発するため、アンケートの分析結果と合わせて、担当するショップに実際に行って客層や売れ筋を確かめる工夫もしました。子連れのお母さんが多い、年配の方が多くなど各ショップの特徴を自分の目で見ること、商品をイメージする参考にしました。

苦労したのは、各ショップへの商品提案です。客の心を動かす

商品には、ユニークさだけではなく、実現可能性などの論理的なデータが必要です。データをコンセプトシートにまとめ、店長や料理長に提案しました。「これは無理だ」とばかり却下されることもあり、なかなか首を縦に振ってくれませんでした。試食会で商品が形になった時はホッとしましたし、店頭で商品が売れる光景を見ると達成感が湧いてきました。

大丸梅田店や各ショップの方と対等な立場で取り組めたことは、大きな自信となりました。教室で学んだことは、どんどん実社会で使っていくべきです。社会に出て、生かしていきたいですね。



ゼミ長  
矢野 和也さん  
(商学部4年生)



# 柏原まちづくりプロジェクト



①市街地を歩いて魅力を発掘する ②③聞き取りやアンケート調査 ④⑤11月の地域イベントではスタジオで子ども向けのゲーム会場とカフェを運営。武士の衣装を着て活動のアピールも

**丹**波市柏原地区で関係団体や地域住民との連携や協議の下、地域の課題や資源の発見、改善の提案や再評価を行う。柏原の中心市街地にある空き民家を活用した「関学柏原スタジオ」を拠点に、原則月1回のフィールドワークを実施。柏原の魅力や課題を明らかにするワークショップ、地域イベントへの参加、子どもたち対象の独自イベントの開催など、年間を通じてまちづくりに直結する調査や活動を展開。今年度は、①空き家を活用したカフェの提案②観光PR動画の作成③公民館の有効活用の3班に分かれ活動。通常の授業はキャンパス内で調査報告や次回の打ち合わせを行う。各学期の終盤には、現地報告会として地域住民に政策提案する。2009年度開講。

## DATA

- ▶ 管理部署 / 総合政策学部 ▶ 履修期 / 春学期(演習1)、秋学期(演習6) ▶ 単位 / 各2単位 ▶ 履修基準年度 / 2年生 ▶ 担当教員 / 角野幸博教授、清水陽子准教授 ▶ プロジェクト参加者 / 各12人
- ▶ 連携団体・企業 / 兵庫県丹波県民局、丹波市、株式会社まちづくり柏原

### 特定の地域に関わり続けることの教育効果は大きい

2年生の早い時期からフィールドワークを経験することで、まちづくりの知識や経験を得ることはもちろん、現場で自分の力で情報を得る価値や、普段なら出会えない現地の人と関わる面白さなど、それぞれに魅力を感じていると思います。3、4年生になっても自主的に柏原に関わったり、卒業論文のテーマに取り上げたりする事例も出ています。また、まちづくりのNPOや都市計画コンサルタントで再開発の仕事をする卒業生もいます。特定の地域に関わり続けることによる教育効果は大きいと感じています。

### 調査活動を重ねて積極性や協調性が身についていく

見知らぬ土地で初対面の人と話すことが苦手だった学生も、気がつけばいきいきと調査できるようになりました。フィールドワークの回数を重ねるたびに、自ら行動したり、次々にアイデアを出したりと積極性や協調性が身についてきています。また現状の分析や課題を発見できる力も磨かれ、授業の序盤では気づかなかったことにも目を向けるようになりました。これは座学では養えません。今後も政策提案や学生らしい元気さで、柏原地区の活性化に貢献できればと思います。

### 思い描いた通りにいかない難しさも

担当は観光PR動画の作成。外部の人間だからこそ感じる街の魅力があるはずだと考え、街中を歩き回ったり、調査を繰り返したりして魅力を発掘。実用性のある動画の完成を目指しました。一緒に笑ったり悩んだり関わる方の表情が分かることが楽しく、準備から本番まで全力で打ち込むことができました。まちづくりにとどんどん興味が湧き、勉強する時間も増えました。

一方、思い描いた通りにいかない難しさも感じました。城下町の柏原では、住民が街の歴史や観光資源に愛着を持っているのは当然だと考えていました。しかしアンケート調査の結果は逆に、当初考えていたプロジェクトが軌道に乗っていませんでした。常に考え続けることもフィールドワークの醍醐味ですね。

私の地元は函館市で、高齢化が課題の一つです。柏原で学んだ知識をさらに深め、将来地元の発展に生かしたいと思っています。

### 住民とのつながりが深まるのが魅力

空き家の有効活用を担当。空き家は景観の破壊だけでなく、犯罪にもつながります。聞き取りとアンケート調査を繰り返し、現場で自分の目で確かめることを意識しながら、住民のニーズを収集。その結果、空き家でカフェをやろうと決めました。実際に運営してみると想像以上に人を集めることが難しく、メニューや雰囲気づくりなどを何度も検討しました。良い交流の場となりました。

受講生全員では10月の「織田祭り」や11月の「100円売店街」といったイベントに参加しました。住民とのつながりが深まるのはこの授業の魅力ですね。

まちづくりと一言でいっても、実際には難しいことばかり。それでも「もっとやりたい!」と思えるやりがいがあり、主体性が身についています。



角野教授



清水准教授



山崎 林蔵さん  
(総合政策学部2年生)



吉本 莉緒さん  
(総合政策学部2年生)

### 法学部山下ゼミも柏原で活動中

2010年から、法学部の山下淳教授のゼミも柏原で、地域住民や店舗などと連携して活動している。今年度は、子育て環境についてのワークショップ、観光マップ作り、ホームページや情報誌による店舗等の情報発信などに取り組んだ。山下教授は「柏原で人間関係や地域の様子など、法律の知識以外のことでも幅広く吸収してほしい」と話す。

→地域の子どもを招いた夏のイベント



# 日本酒振興プロジェクト



①毎年10月に西宮神社で開催される「西宮酒ぐらルネサンスと食フェア」(2015年は約13万人来場)のブースで宮モヒートを販売。直接、消費者の感想や反応を見ることができた ②太平洋SOGO台湾店で3日間、試飲販売を展開。予想を上回る売れ行き ③大関(株)とのミーティングでは調査結果を共有し、商品企画への提案を行う

会計を専門とする国際学部木本圭一ゼミは、西宮市の活性化などを目的に地産産業である日本酒を振興する同プロジェクトを2014年度から実施。地元酒造メーカー、西宮商工会議所、日本バーテンダー協会神戸支部等と連携し、日本酒の魅力を発信している。プロジェクトは兵庫県神戸南県民センターの「大学生による都市型ツーリズム推進支援事業」にも採択された。具体的には、若者の日本酒の飲用傾向の調査や、日本酒にミント、ジンジャーエール、ライムを加えた創作カクテル「宮モヒート」のPRによる日本酒の魅力発信などを実施。2015年度からはビジネスプランや起業を専門とする人間福祉学部大熊省三ゼミと合同で、新たに大関株式会社との商品開発や国際広報に取り組んでいる。

## DATA

- ▶ 管理部署 / 国際学部・木本ゼミ、人間福祉学部・大熊ゼミ
- ▶ 履修期 / 通年 ▶ 単位 / 4単位 ▶ 履修基準年度 / 3年生
- ▶ 担当教員 / 木本圭一教授、大熊省三准教授 ▶ プロジェクト参加者 / 26人 ▶ 連携団体・企業 / 地元酒造メーカー4社(白鷹、白鹿、大関、日本盛)、日本バーテンダー協会神戸支部、西宮商工会議所、西宮市、太平洋SOGO(台湾)など

## 自ら課題を見つけて 解決方法を考え 計画して実行する訓練

このプロジェクトの特徴は、企業や自治体等と連携し、消費者への直接販売や海外での広報など幅広い体験ができることです。理論として学んできたことが、現実の社会ではどのようにしているか、より理解が深まります。プロジェクトというのは、一人では何も進みません。仲間との連携が重要です。今年度から学部の異なる2つのゼミの合同プロジェクトとなったので、コミュニケーション力、リーダーシップも養われます。学生たちは社会人の方々との交渉も経験しますが、一般的なビジネスのルールを理解しないまま発言や行動をしてしまい、お叱りを受けることもあります。実はこれがとてもいい経験なのです。

私は最低限守らなければならないことは伝えますが、それ以外のことは何も言いません。学生の発想力、行動力を信じて任せます。そうする方が学生にとって得るものが多いからです。本プロジェクトは与えられたものをこなすのではなく、自ら課題を見つけ、解決方法を考え、計画して実行する訓練の場ともいえます。一度、プロジェクトが動き出すと、責任を果たさなければ、関係者に多大な迷惑をかけます。そういう局面を体験した学生は底力を発揮してくれますよ。



木本教授

## 意見の食い違いもあったが 人のつながりの大切さを実感

海外展開リーダーになったものの何をするかは自分たち次第。細い糸をもたどる気持ちで台湾留学中に会った方々を頼りに話をいくうちに、台湾の百貨店太平洋SOGOの方と直にお会いできることに。10月に開催される「日本食物産展」で西宮のお酒を加えてもらえないか交渉を開始し、各酒造メーカーや現地代理店とも日本から中国語と英語でメールや電話を何度も繰り返し、大関と白鷹の商品陳列が実現しました。当日は実際に現地に行き、店頭づくり、試飲提供、売上管理なども実施。意見の食い違いが生じることもあり、本当に大変なこと続きでしたが、それ以上に達成感や充実感があり、人とのつながりの大切さを実感することができました。



海外展開担当  
佐田 美緒さん  
(国際学部3年生)

## 学生の新しい感覚や意見は 社員にも新鮮な刺激に

本プロジェクトの皆さまと取り組むことで、次世代の若い方に日本酒が世界の誇る文化の一つであることを、また約300年余培ってきた大関の企業姿勢も肌で感じ取っていただけたらと期待しています。日本酒を取り巻く環境は大きく変化していますが、業界の常識にとらわれず、新しい感覚や意見を取り入れ、時代の波にしっかりと進歩していきたいと考えています。学生の皆さんとのディスカッションや生の声の調査結果は大変参考になっており、商品開発だけでなく社員にも新鮮な刺激を頂き、感謝しています。



大関(株)取締役  
長部 訓子さん

## 外国人や若者を対象に調査 結果は企業にフィードバック

外国人向けインバウンド商品と若者向け新商品を大関と共同で開発しています。約270人の外国人へのアンケートでは、好みのラベルイメージや引かれるデザインについても調査。この結果を大関にフィードバックし、商品開発の参考にもなっています。また、日本人の若者を対象にした調査結果に基づき、新たなフレーバーを提案し、商品化に向けて具体的に進めているところです。



合同ゼミプロジェクト統括  
五島 成美さん  
(人間福祉学部3年生)

## 利益や結果が求められる 社会の厳しい一面を知った

「西宮酒ぐらルネサンスと食フェア」のブースで宮モヒートを販売した際は、酒造メーカー、バーテンダー、祭りの運営に携わる方など、一つの商品が消費者の手に届くまでさまざまな人の関わりがあることを知りました。同時に利益や結果を出すことが求められる厳しい社会の一面も知り、身が引き締まりました。礼儀、適切な言葉使い、スピード感の大切さなどを実感できました。



会計担当  
藤井 大地さん  
(国際学部3年生)



# 社会を変えるコミュニティートレード



①商品開発したクッキー ②③ホーム塩屋で実施した記者会見 ④⑤8月のイベントではネパールの民族衣装を着て販売

2015年に発生したネパール地震で被災した女性の支援と復興を目的に、特定非営利活動法人アジア自立プロジェクト(AWEP)、社会福祉法人ホーム塩屋と連携し、ネパール原産の食材を使用したオリジナルクッキーを商品開発、販売した。受講生はクッキー開発班、パッケージ制作班、広報班の3班に分かれて活動。両団体との打ち合わせ、試作品の開発、パッケージ制作、プレスリリース、8月と12月のイベントでのクッキー販売などの実践活動を行った。年間を通じて、商品開発やマーケティングなどの経営学、プロジェクトの運営といったマネジメントの経験を積む。またAWEPとの連携で国際的な視野を養い、ホーム塩屋との連携で知的障がい者の労働についても学ぶ。販売利益は全て、ネパールで女性の人身売買防止などの活動を行う団体「シャクティ・サムハ」に寄付した。

## DATA

- ▶ 管理部署 / 共通教育センター ▶ 履修期 / 通年
- ▶ 単位 / 4単位 ▶ 履修基準年度 / 2年生 ▶ 担当教員 / 定藤繁樹・経営戦略研究科教授、大森恵実講師
- ▶ プロジェクト参加者 / 8人 ▶ 連携団体・企業 / 特定非営利活動法人アジア自立プロジェクト(AWEP)、社会福祉法人ホーム塩屋

## プロジェクトマネジメントの実体験を通じ人間として大切なことに気づく

このプロジェクトでは、企画、生産、販売、収益管理など一連の流れを学生自身が体験する機会を大事にしています。また、マスコミへの記者発表や活動資金調達など、その時期に合わせたステップも入れ、プロジェクトマネジメントを学ぶことを狙っています。

学生がホーム塩屋に行くと、知的障がいの方が待っていてくれます。みんな本当にいい笑顔で迎えてくれますよ。学生と一緒に昼ご飯を食べたり、おしゃべりをしたりと交流を

深めることは、知的障がい者の方の活力につながっているそうです。このようにつながりが生まれることに、学生と福祉施設が連携する大きな意味を感じます。またAWEPから教えてもらうネパールの現状も学生には新たな発見が多いようです。国際問題や支援活動に関心が深まったという学生もいました。

この取り組みでは、プロジェクトマネジメントの体験に加えて、学生一人ひとりが人間として大切なことを感じるができると思います。私自身、知的障がいの方が自分の能力を生かしていくいきと動いている姿を見て、生きる意味や人とのふれあいの大切さを考える機会となりました。学生には今後もこの経験を生かして、人間として成長してほしいですね。

## やりがいを感じ視野も広がった

私はクッキーの開発を担当しました。まずは学生間で何度もアイデアを出し、ネパール原産の食材を利用することを決めました。またホーム塩屋で、働いている知的障がい者の方々のお菓子作りの高い技術を見て、いかにその技術を生かしたクッキーにするかを考えました。方向性が決まると、両団体と打ち合わせや試作を重ね、使用する原産品を絞り、岩塩、紅茶、ブラックペッパー、カルダモンの4種のクッキーを8月に完成させました。原産品はどれも味の個性が強く、子どももおいしく食べられる味にするのに苦労しました。頑張った分、味には自信があります。また

ネパールを連想させる山脈型クッキーなど見た目にもこだわりました。

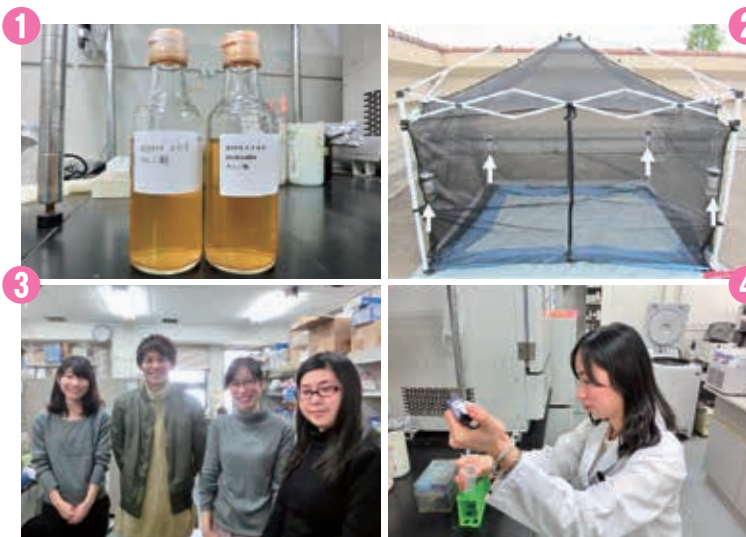
8月のイベントでの販売では、初日から販売目標を大幅に達成。お客さんがネパール地震について思いを巡らせるきっかけにつながったのがうれしかったことです。12月のイベントは高校生が対象のため、1パックの量を少なくして価格を下げました。またクッキーの味を説明したチラシの配布やネパールの現状の説明なども行い、販売促進も工夫しました。実際の現場で、計画を上回る結果が表れるのは楽しいですね。

意思疎通の難しさを痛感しましたが、学生、AWEP、ホーム塩屋と分野の異なる3団体が一つの目標に向かうという経験ができ、何ものにも変えられないやりがいを感じましたし、視野も広がりました。今後も年齢や職歴の違う人と一緒にさまざまな挑戦をしていきたいです。

野口 夏実さん  
(国際学部2年生)

定藤教授

# マルカン酢(株)研究所との共同研究



①左が通常の酢、右が匂いを抑えた酢 ②ショウジョウバエ誘引性を調べる実験風景。神戸三田キャンパス4号館の屋上に設置されている ③マルカン酢(株)と共同研究している学生たち ④実験中の石井さん

世界最古の調味料として知られている食酢の製造において、酢酸菌は欠かせない微生物。学生たちは微生物生化学と酵素工学を専門とする藤原伸介・理工学部教授の下、1649(慶安2)年に創業し宮内庁御用達商品として有名なマルカン酢株式会社研究所(神戸市)と共同で行っている。

## DATA

▶管理部署／理工学研究科・藤原研究室 ▶科目名／特別実験および演習 ▶担当教員／藤原伸介教授 ▶プロジェクト参加者／5人 ▶連携団体・企業／マルカン酢株式会社研究所

## 企業の研究員との関わりで気づく企業や社会のニーズ

ドクター(博士課程後期課程)に進む学生は、学部卒やマスター(博士課程前期課程)卒の学生に比べ企業に就職するのが困難です。それはドクターを3年で取った場合、27歳になります。24歳のマスター卒に比べると、社会人としてのスタートラインは3年遅いことになります。27歳という年齢は、企業ではマネジメントや研究の企画を求められます。

ドクター卒の人は論文執筆や学会発表といった専門性の高い技能を持っていますが、それだけでは企業や社会のニーズにそぐいません。そこで学生を企業と共同研究させています。そうすることで学生たちは自然と企業マインドを身につけることができるのです。また企業の研究員たちと一緒に研究することで、学生たちのモチベーションも大きく変わります。例えば、悪い意味で研究に慎重になりすぎていた学生が企業の研究員と関わっていくうちに発言が多様になり、思い切りもよくなりました。今後も企業との共同研究を進め、学生たちには多くの経験と実践を積んでもらいたいですね。



藤原教授

## 研究への意識の高さに刺激を受ける

食酢の香味には主成分の酢酸のみならず、酢酸菌の代謝により生じたさまざまな物質が存在しています。酢酸菌が生産する種々の物質に着目し、新たな機能性食酢の開発を目指しています。例えば、脂肪燃焼に効果のある物質や飛翔昆虫を誘引する物質に注目し、酢の独特の匂いを抑えた酢、ダイエット酢、ショウジョウバエ捕虫器の製品開発を目指しています。

さらに、酢酸菌の生育する環境がとてもユニークなことから、この特性を生かした基礎研究も進めているところです。

マルカン酢(株)研究所から来ている研究員の方と一緒に研究を進めています。研究員の方と学生の違いは、市場に沿った問題提起をしていること。その問題に対する解決策をいかに効率よく実現するかを常に意識されています。その研究に対する意識に刺激され、自分の研究計画を見直すことができました。4月からは博士課程後期課程に進み、今の研究を発展させて、将来は世界で活躍できる研究者になりたいです。



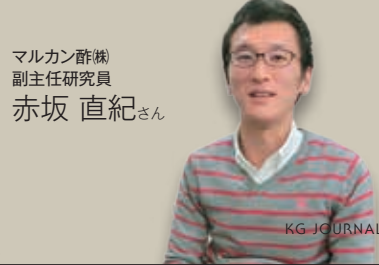
石井 友理さん  
(理工学研究科  
生命科学専攻M2年生)

## 学生の協力で研究は飛躍的に前進

私は修士号を取得後、マルカン酢(株)に就職しました。弊社は2011年に関西学院大学との共同研究をスタートさせ、私は研究が本格的に始動した12年から藤原研究室に常勤し共同研究を進めながら博士号を取得しました。

企業に例えると、新入社員が仕事を好きになるか否かは直属の上司にかかっていると思います。ですので、学生からの質問には、研究に従事している先輩としてできる限り答えるように努めています。

藤原研究室の学生たちは、研究に対する姿勢が非常に真面目です。研究開始当初、ベースラインが固まっていなかったのですが、石井さんをはじめ学生たちの協力のおかげで研究が飛躍的に進みました。実験は平日だけでできるものではなく、途中でやめることができませんが、石井さんたちは逃げることなく完遂します。そんな学生たちの様子を見て襟を正す思いになります。将来は学生たちが世界に羽ばたく研究者になってくれることを願っています。



マルカン酢(株)  
副主任研究員  
赤坂 直紀さん



# ビジネス・リーダーシップ・コーチング(BLC)I・II

# 実践型教育の意欲を高める新たな授業

**個** 人やチームの目標を達成させるための「コーチ型リーダーシップ」を身につける、実践重視の授業。コーチ型リーダーシップは、指示・命令するのではなく、対話を通して、相手のやる気や能力を引き出すリーダーのあり方。メンバーに自ら考えさせ、主体的に行動し、成長し続けられるような影響を与える存在になることを目指す。学生は、質問することで相手が抱えている課題などに自ら気づかせる「コーチング」の技術を習得するため、授業外で友人や知り合いなど3人以上にコーチングを実践。実際に相手に行動の変化を起こさせるところまでを目指した(BLCI)。BLCIIでは、株式会社フェリシモ、田辺三菱製薬株式会社から提供された課題に対して、4チームに分かれてプレゼン発表に取り組んだ。プレゼンするのが目的ではなく、グループコーチングを実践して、メンバーの関わり方が個人にもチームにも目的に合ったもので、それぞれの成長につながられたか、チームとして最大の効果を発揮できたかが問われる。

## DATA

▶管理部署／国際学部 ▶履修期・単位・受講者／BLCI(個人へのコーチング)＝春学期・2単位・69人、BLCII(組織へのコーチング)＝秋学期・2単位・13人 ※BLCIの単位修得が履修条件 ▶履修基準年度／1年生 ▶担当教員／小林文仁・国際学部非常勤講師 ▶連携団体・企業／株式会社フェリシモ、田辺三菱製薬株式会社



①グループコーチングセッション。この日は、課題提供者役の学生が、「プレゼン発表に向けてのチームの活動が、最終的に達成すべき目標を念頭に置いていない」とチームの取り組み状況について感じていることを挙げた。グループコーチ役の学生は、「他の人はどう感じている?」「原因は何だと思う?」「同じような経験をした人はいない?」など次々とメンバーに質問を投げかけ、全員の発言を促す。結果、「細部にこだわりすぎ、課題の趣旨をきちんと意識できていなかった」という本質的な問題を共有、「チームの活動プロセスを見直す」という今後の行動につながった。小林講師は、「グループコーチは自分の意見は言わなくても、チームが前向きに改善に取り組めるようにできた。皆で合意した内容は実行に移しやすい」と語る。②③株フェリシモの人事担当者から課題発表される場面と、田辺三菱製薬様を訪問して中間プレゼン発表を行う学生たち ④毎回小グループに分かれ、予習してきた内容について知識や考えを共有し意見交換する

## スクールモットーを体現し 他者のために貢献できる人間に

成長のない企業は生き残れません。取り巻く環境が急速に変化し、グローバル化による多様性が進むビジネスの現場では、短期間でさまざまな意見を持つメンバーを結束させ、それぞれの力を発揮させる指導者が求められています。指示・命令型ではチームの思考が止まり、意欲も低下します。緑の下の力持ちとなれるリーダーの育成が急務ですが、企業に入ってからコーチ型リーダーシップを身につけるのは時間的にも難しい。ですから大学1年生のうちから、周囲のみんなと共に成長していくリーダーシップを身につけることは非常に有意義です。その後の大学生活のあらゆる場面で活用できますし、社会に出て困難なことや不条理なことに出くわしても、その考えを軸に対応ができるでしょう。

学生には学んだ知識をとにかく実践させます。知識は使ってなんぼ、習うより慣れる!です。BLCIIでは、企業に協力してもらい、実社会の厳しさも体感してもらいました。また、毎回、受講の目的、成果、その経緯などを記すポートフォリオを作成します。成長の軌跡を残し、自分自身の「取り扱い説明書」ができます。新しいことに取り組む時の参考になります。

コーチ型リーダーシップはスクールモットー“Mastery for Service”を体現するものだと感じています。他者のために貢献し社会をよりよい方向に導ける学生を育成し、その学生が周囲に影響を与えてリーダーシップの輪がどんどん広がっていくことを期待しています。

## 仲間を増やし 共に高め合うリーダーに

高校生の時からボランティアサークルの副代表を務めています。どうすればリーダーシップを発揮できるのか悩んでいました。しかし、コーチングを使ったら、今まで気づけなかった同じサークルの仲間の考えが分かり、よりよい関係を築けるようになりました。自分の考えを押しつけるのではなく、メンバーの考えを聞き出し、対話することでよいチームづくりができることを実感しました。相手の本音を聞き出し、行動に移させるには質問する内容も重要ですし、自分自身にもしっかりした軸がないと難しいと感じます。

授業では先生から「何のためにこの授業で学んでいるの?」「学びをどう将来につなげたいの?」と常に問いかかけられます。他の学生の発表や考えを知り、それが刺激になって互いに高め合うことができるのがうれしいです。コーチ型リーダーはまさにそのような仲間を増やし、自分も周囲も高めたいリーダーなのだと思えます。

## 人のために何ができるか 考えるようになった

高校生の時、国連ユースボランティアを経験した関学生の話や、海外を舞台に人の役に立つ仕事をしたいと考えるようになりました。そのためにリーダーシップを身につけようと、BLCI・IIを受講。人前で発言するのは得意な方でしたが、「人の支えになる」リーダー像は新鮮で、自分を抑えて相手のために何ができるかを考えるようになりました。

BLCIでは、質問の仕方、うなずきなど個人に対するコーチングスキルを学び、私は毎週3人に対してその方法を実践。家庭教師先の生徒には、これまでの指導スタイルを改め「間違えたのはなぜだと思う?」と対話を重視しました。生徒が自主的に勉強に取り組み始め、成績が上がったのには驚きました。

毎回、レポート、小テスト、発表、コーチングの実践、学習ポートフォリオの作成など課題は多いですが、この量をこなすための自己管理能力も養われ、自信につながりました。2年次には、国際社会貢献活動でフェリシモに行きます。コーチングのスキルを生かして仕事に関わってきたいです。



石川 ミラさん  
(国際学部1年生)



遠藤 樹さん  
(国際学部1年生)

学内でも、学生が社会に出ていく意欲を高める授業や取り組みがあります。その一つとして、今年度から始まった授業「ビジネス・リーダーシップ・コーチング」を紹介します。

## SRに就職活動聞く！体験談

4年生SR(Student Reporters)に先輩へのサポート内容や経験談、就職活動へのアドバイスを聞きました。

私は、SRの先輩を最も活用した就活生だと思います。ほんの数カ月前まで就職活動をしていた先輩のアドバイスは、どれも説得力があって参考になることばかり。たくさんのエントリーシートを見ていただき、その都度、直接相談もすることで自分の考えを整理することができました。頼れる先輩から太鼓判が押されたエントリーシートは、何よりも自信になりました。

就職活動では、人の何倍も準備したと思っています。面接対策もその一つ。徹底的にやった自己分析が頭に入っているため、どんな質問がきても、自分らしさや思いを伝えられる自信がありました。また伝え方もたくさん試行錯誤しました。自信を持って挑めたからこそ、良い結果につながったと思います。

また準備が必要な理由はもう一つあります。企業の採用選考活動時期変更に伴い、これまで以上に、企業から急な選考に呼び出される可能性があったからです。一つ第一志望の企業から声がかかるか分かりません。油断せず、常に選考の準備と心づもりしておきましょう。

私や丸田さんをはじめ、SRがいつでも就活生をサポートします。SRはさまざまな経験をして、いろんな業界の企業に内定したメンバーがそろっています。気軽に足を運んでください。

法学部4年生  
窪田 智一さん  
トヨタ自動車株式会社内定



年明けからは、大手企業から中小企業まで可能な限り幅広く説明会やインターンシップに参加しました。直接自分の目で見ることを大切にしていたため、企業の人事担当者と接する機会をつくることを意識しました。

3月からキャリアセンターのプログラムをフル活用。学内企業説明会では、各業界を代表する企業の人事採用担当者が関学生のためだけに話をしてくれます。これを絶好の機会と捉え、各業界から最低でも2社の話を聞き、志望する業界を絞る判断基準にしました。また毎年3月に開催される「全国有力企業研究会」にも参加。愛媛県出身の私にとって、帰省せずに地元企業と接する機会ができたことで時間とコストを抑えることができました。この時期は広い視野で、業界や企業と触れることが大事ですね。

4月以降は授業との両立も大切です。急な選考が入ることは仕方ありませんが、先を見据えた計画と、選考が重なった際に優先順位を判断できる自分の軸を確立しましょう。

最後に先輩訪問をおすすめです。関学出身の先輩は皆さん親切で、就活生の疑問を解決してくれるはず。私は内定先の富士通株式会社の先輩訪問を行いました。忙しい合間を縫って親身に相談に乗ってもらえて、強く志望するきっかけになりました。就職活動は行動あるのみです。

法学部4年生  
丸田 幸奈さん  
富士通株式会社内定



## 個人面談

キャリアセンターの職員や専門のキャリアアドバイザーが、自己分析やエントリーシートのアドバイス、筆記試験対策、面接トレーニングなど、さまざまな相談に柔軟に対応します。積極的に活用し、具体的な対策を進めましょう！



実施日

- ◆1月～3月(月～土)毎日開催中)
- 西宮上ヶ原・西宮聖和\*・神戸三田・大阪梅田キャンパス (西宮聖和キャンパスは1月の平日のみ)
- ※「KGキャリアナビ」で1週間前から予約受付しています

## 就職活動直前ガイダンス ～企業情報最前線～

今、就職活動の準備に何をすべきか、各業界の最新動向を交えてお伝えします。これまでのガイダンスに参加していない人はもちろん、参加していた人も必ず参加してください。



実施日

- ◆1月29日(金)
- 【文系対象】西宮上ヶ原キャンパス
- 【理工系対象】神戸三田キャンパス
- ※理工系学生でも、文系職種就職希望者は、西宮上ヶ原キャンパスのガイダンスに参加してください

## 業界研究セミナー

年内の業界セミナーに続き、2月は「日本を支える優良トップ企業」「食品業界」「専門商社」や、「公務員」「地元就職」「女性の働き方」など、テーマ別にセミナーを多数開催します！就職活動本番の前に、自分に合った働き方を考える機会としてください。



実施日

- ◆2月1日(月)～2月5日(金)
- 「公務員説明会」大阪梅田キャンパス
- ◆2月9日(火)～2月26日(金)
- 「業界・仕事研究セミナー」西宮上ヶ原キャンパス
- ※2月12日(金)は除く

## 就職の窓

# 本就職 活！ キャリアセンターの 支援プログラムの 活用を！

企業の3月の広報活動開始が迫り、3年生、M1年生は、いよいよ就職活動本番を迎えます。ここではキャリアセンターが開催する各種就職セミナーや説明会などの情報、就職活動を終えたばかりの4年生の体験談を紹介します。情報をチェックして就職活動に活かしましょう！



## シューカツに勝つ 先輩の就職活動



株式会社帝国ホテル  
星野 友花さん  
(2014年法学部卒)

帝国ホテル東京で、コンシェルジュの役割を担うゲストリレーションズデスクで勤務しています。主に、ご宿泊中のお客様への観光案内やツアー手配、館外レストランの予約代行、各種チケット手配など、多岐にわたる問い合わせを受ける部署です。

私のデスクにいらっしゃるお客様の半分以上は外国人の方です。学生時代に習得した英語と中国語を使い、奮闘する毎日を送っています。お客様のご滞在をサポートし、「ありがとう」と言っていたことがやがりがいです。

後輩の皆さんに3点お伝えします。

### ▶絶対揺るがない、あなたがやりたいことは何ですか？

就職活動中に面接で質問された「入社後にやりたいことは？」と、入社後、会社の面接で聞かれる「今後、会社でやりたいことは？」の私の答えは同じです。それは「日本の良さを世界中の人々に発信したい」です。この思いを持って就職活動し、入社し、今も働いています。何となくではなく、揺るがない思いを持って面接を受ければ、きっと会社には伝わりますし、入社後につらいことが続いたとしても頑張っているはずですよ。

### ▶入りたい会社のことを、よく知っていますか？

採用面接を受ける会社のことを徹底的に調べ、面接に挑んでください。その会社が関係するニュースや歴史など、できる限り多くの情報を集めて読むことで、どんな質問がきても柔軟に対応することができます。また会社について調べたという努力や意欲のアピールにもつながります。

### ▶最後に…

自己紹介は自信を持ってする。質問には素直に答える。怒られれば直ちに謝る。面接には、面接担当者の部下になった気持ちで挑んでください。会社の方針と自分の考えが一致すれば、あとは人と人の相性です。「一緒に働きたい!」と思ってもらえるよう、すてきな笑顔で頑張ってください。社会で、また新たに関学生と関わることを楽しみにしています!

## 学内企業説明会

企業が広報活動を開始する3月から、「学内企業説明会」を開催します。関学生を積極的に採用したいという意欲のある1,000以上の企業・団体が「事業内容」や「採用選考プロセス」「求める人材」などを話します。この説明会をきっかけに内定を得た関学生もたくさんいます。



実施日

### ◆3月以降

西宮上ヶ原・神戸三田・大阪梅田キャンパス  
※神戸三田キャンパスは理工系職種希望者を対象に実施  
※理工系学生でも、文系職種の就職希望者は、西宮上ヶ原・大阪梅田キャンパスの説明会に参加してください

## 模擬面接体験セミナー

【集団面接編・グループディスカッション編】

企業の採用面接を熟知した講師が集団面接とグループディスカッション対策を伝授します。このセミナーを通じて本番さながらの緊張感を体験し、面接の雰囲気に慣れておくことが重要です。現在の自分の力や課題を認識して就職活動に役立てましょう!



実施日

### ◆2月~3月

西宮上ヶ原・大阪梅田キャンパス(事前予約制)  
※「KGキャリアナビ」より、開催日当日7日前の10時から予約開始

## SR個別相談室

4年生SR(Student Reporters)がどんなささいなことでも個別の相談に応じます。就職活動を終えたばかりの先輩たちだからこそ分かってもらえることも多いはず。ぜひ気軽に相談してください。



実施日

◆2月2日(火)~8日(月)の平日 大阪梅田キャンパス  
2月9日(火)~29日(月)の平日 西宮上ヶ原キャンパス  
※2月12日(金)は除く

## 合気道の全日本学生大会 創部初の個人優勝で2冠達成



松原 徹さん 商学部3年生

10月に開催された「第46回全日本学生合気道競技大会」において、短刀側と徒手側を90秒ずつ行う乱取個人戦で創部初の日本一に輝いた。石谷勇斗さん(文学部3年生)と演武対武器の部にも出場。息の合った演武で優勝し、2冠を達成した。

乱取個人戦では、得意の突きを武器に順調に駒を進めた。予選の決勝は、優勝候補の格上選手を相手に、勝利への執念で逆転勝ち。その後も勝ち進み、決勝では突きで先制すると、相手の攻撃を冷静にさばって1点差で逃げ切った。

小中高と野球部に所属。関学大入学後、初心者でも努力次第で日本一が狙える合気道に興味を持ち、美しさや迫力を兼ね備えた上級生の演舞に魂が震えた。「偉大な先輩たちを超えて、絶対日本一になる」と入部を決意。授業以外は朝から晩まで合気道漬けの日々を過ごし、順調に腕を上げた。

2年生で団体日本一に貢献し、3年生では副将として部を牽引している。「競技力も精神力もさらに鍛え上げ、個人戦はもちろん、団体戦でも勝てるチームをつくりたい」と燃えている。

## けがを乗り越えてプロ指名 息の長い投手を目指す



田村 文さん 商学部4年生

2015年のプロ野球ドラフト会議で、横浜DeNAベイスターズから育成3位で指名を受けた。「直球でガンガン攻める投手になる」と闘志を燃やす。

小学3年生の時に野球を始め、高校生で投手に。走り込みや投げ込みを重ね、エースとして頭角を現した。

関学大入学後は1年生春のリーグ戦から登板するが、好事魔多し。腰のけがに見舞われ、2年生では投げられることも走ることも困難に。

回復と再発の一進一退を繰り返す、3年生まで球に触れない日々が続いた。

野球を諦めかけたこともあったが、夢に向かって筋力の強化を続けた。

すると次第に腰が回復し、練習を本格的に再開。筋力トレーニングの成果が出始め、4年生で140キロ台後半の球速を記録するまでになった。制球力や変化球にも磨きがかかり、14年にプロ志望届を提出した。

だが、14年のドラフトでは指名がからなかった。就職活動も視野に準備していたところ、以前から興味を示してくれていたスカウトから声がかかり、夢を再燃させた。50キロ、7秒の俊足、遠投115メートルの高い身体能力や負けん気も買われ、夢だったプロの指名を受けた。

「1年で支配下登録を目指し、選手生命の長い投手になりたい」と意気込んでいる。

勉強に、スポーツに、趣味に一。  
さまざまな分野で一生懸命に頑張るKGビープル。  
きらきらと輝く横顔を紹介する。



## ビジネスの共通課題について 中韓の学生と政策提言

今井 恵さん

社会学部2年生



10月に韓国ソウルで開催された「第7回国連グローバルコンパクト 日中韓ラウンドテーブル」のユースプログラムに参加し、ビジネスの共通課題について、日中韓の学生と議論や政策提言を行った。

今回のテーマは「気候やエネルギーに関する企業の社会的責任」。日中の学生が混合で3チームに分かれ、チームごとに導いた政策を発表する。「3カ国の若者が目標に向かって協力することに魅力を感じた」と挑戦を決意。書類審査を突破し、13人の日本代表の一人に選出された。8月から事前研修を受け、環境、災害、企業や若者の取り組みなどについて調査した。

3日間のプログラムは分刻みで行う。初日からグループでの提案作成が始まった。最初は中韓の学生の意欲に圧倒されたが、「彼らの熱心で勤勉な姿勢に負けないよう、私も存在感を高めよう」と意識。進んで情報収集を行い、積極的に議論に参加した。その結果、メンバー全員が力を惜しまず取り組めたことを実感し、国籍を超えた友情を築くことができた。

将来の夢は、東アジアの持続的な協力関係の構築に携わることだ。「互いに利益を生むために、他国の現状をしっかりと認識する必要性を学んだ。今後も留学などさまざまな挑戦を通じて、成長したい」と目を輝かせる。

ひと一人ひと

## 有事を想定した防災活動で 震災の教訓を継承・発信

中川 悠美さん

総合政策学部4年生



2015年度新聞協会賞（経営・業務部門）を受賞した神戸新聞社の「117KOBEBEぼうさいマスタープロジェクト」の「ぼうさい委員会」に所属し、中核として震災の教訓継承に励んだ。

同委員会は兵庫県内13大学の学生約80人で構成され、震災の知識や救命措置技能の習得、防災イベントの実施、広報活動などを行っている。印象に残っている活動は、神戸空港島の空き地で開催した避難所体験合宿だ。震災時の極限状況を想定し、一般の参加者とテント生活を体験。「人と寄り添っていることがいかに安心感につながるかを心身で実感した」と振り返る。

15年1月には、久元喜造神戸市長と防災について対談。活動での経験や課題を伝え、「商業施設や観光地などさまざまな場所がある神戸では、その場その場にフィットした安全行動を指導できる訓練がさらに必要」と意見を交わした。

阪神・淡路大震災時は兵庫県川西市に住んでいたが、まだ1歳で直接的な記憶はない。知らないからこそ、一つひとつの活動に意味を見いだし、有事を想像する力をつけた。大学でも都市防災について勉強している。「有事は発生してほしくないけど、非日常にはいけない。大事な人の安全のためにも常に意識してほしい」と働きかける。



文学部  
田和正孝ゼミ

## 漁業者が頼る感覚的な知恵や技術を聞き取りや観察で学術的に検証

### 専

門は漁業地理学で、海洋文化と沿岸の漁場利用

最近では石干見<sup>いっかん</sup>という、海岸に石を馬蹄形に積み上げ、干潮時に

形態について、フィールドワークを中心に据えて研究しています。主たる研究の場は、西南太平洋地域、特に東南アジアと瀬戸内海を含む西南日本です。

石積みの内側に残り残された魚介類を捕る伝統的な漁法に関心を持っています。石干見は古くから小さな地域社会で発展してきた歴史があり、世界中に存在します。同じように構築された石干見

魚の生息や移動状況は、季節、天候、潮流などさまざまな条件が関与し、漁獲量に影響します。日々変化する環境条件の中で、「この潮なら、この磯で

でも設置場所や環境条件で漁獲量が差が生じます。台湾、澎湖諸島では共同で築かれた石干見の

タイがよく釣れる」「今日

の天候は大荒れる」「今から危険だ」など、漁業者は何代にもわたって培ってきた知恵や経験を頼りに漁に出ます。私

は目には見えない漁業者の知識の体系を解明するため、現地に行つては漁船に乗せてもらい、漁業者の生の声を聞くことを大切にしてきました。とはいっても、知恵や技術を解明することは

1年間にわたる利用順をくじ引きによって決めるなど、利用形態についても地域ごとに特徴があります。

易しくありません。聞き取り、観察、時間計測などで収集したデータを地図に落とし込んだり、グラフにまとめたりとさまざまな手法で、漁業者の語ることや漁業の活動を学術的に検証しています。

フィールドワークの魅力は、研究の枠を超えて現地の人々と深い人間関係を築けること。「先生つー」と漁師さんはみんな温かく迎えてくれますよ。学生には現場に行く醍醐味を感じてほしいです。



田和正孝 教授

## 流通を通じ水産物の地産地消の可能性を探る



柴切 克樹さん  
文学部3年生

「水産物の地産地消における流通システムについて研究しています。」

具体的には「漁業者」「卸売業」「飲食店や小売業」の3つに焦点を当て、水揚げされた魚が消費者に届くまでの流通経路、季節や天候の影響が水産物の流通にどう影響するのかなどを調べています。調査はフィールドワークや関係者への聞き取りが中心。春季休暇には漁業者と一緒に漁に出たり、漁業協同組合から漁獲量などのデータを収集したりと、積極的に足を運ぶ予定です。輸入した水産物に頼る飲食店や小売業、観光業なども対象に、水産物の地産地消の可能性を探っています。

ゼミ生は「海苔の養殖」「地域ブランドの形成過程」など、各自が興味を持ったテーマを研究。みんな活発に発言するので、さまざまな考えを吸収できます。チームワークもばっちりです。研究に熱く温厚な田和先生とともに、みな楽しく研究しています。





理工学部人間システム工学科  
中後大輔研究室

## 人が日常生活で感じる不便を見定め 役立つロボット技術を研究

「人」を支援するサービスロボット「テイクス」をテーマに研究しています。人を知る（人動作のモデリング）、人と接する（ロボット・ユビキタスシステム）、人が使う（サービスロボット）がキーワード。ロボット技術を最優先させ、それを人の生活に役立てるのではなく、人が日常生活で不便に感じていることを見定めて、ロボット技術を役立てる研究をしています。つまり、技術あつての人ではなく、人があつての技術です。

例えば「褥瘡軽減動作支援装置」。日常的に長時間車椅子を使用する場合、仙骨付近に体重が集中するため褥瘡（床ずれ）ができます。日本では、車椅子は持ち運びのしやすさを重視したものが広く普及しているため、長時間の使用に適していません。褥瘡のリスクを低減させるためには30分ごとにお尻を動かすことが効果的とされています。そこで私たちは、空気圧を使ってお尻と背中をサポートする力を変えることができる装置を考案しました。さらに、使用者

個人の体格や座り方を考えて、体力が少ない使用者でも健康な人のように「自然」にお尻を動かし、座る姿勢を整えるシステム技術を作っています。使用者や福祉関係者へのリスニングや心理学など分野横断的に物事を考え、研究を進めています。

私は、人に寄り添う技術が真価を発揮するためには、個々の技術

を磨くだけではなく、複数の技術がシステムとして機能することが大事だと考えています。そのため、システム感覚に優れた研究者・技術者を育成したいと考えています。「水飲み場へは連れて行くけれど、水を飲む方法は自分で考える」これが私の教育方針です。研究の主役は学生。学生には自分を高める意志を持つてほしいです。



中後 大輔 准教授

## 車椅子の人が操縦できる移動ロボットを



小林 司さん  
理工学研究科M2年生

中後研究室を選んだ理由は、介護よりのロボットを研究することで世の中に役立つからです。高齢化社会では、日常環境下において人とロボットの共存が予想されます。障害物に応じて形態を切り替えてスムーズに車椅子を移動させる技術が今後、求められるでしょう。そうした世の中の動きと祖父が電動車椅子を使用していることから、車椅子に乗っている人が操縦できる一人乗り移動ロボット「パーソナルモビリティロボット」を研究しています。研究で一番大変なのは、研究の方向性を見極めることです。どこに新規性独自性を見いだすか、それらが本当に世の中の役に立つシステムなのかを常に考えています。

研究に迷った時、中後先生は学生の自主性を重んじながらも適切なアドバイスをくれます。自分のビジョンが明確で、世の中に役立つものを作りたいと思う人にはおすすめの研究室です。



# 突撃! KG CLUB *by KGB*

このコーナーでは、KGB 総部放送局が記事と映像で、部活動に励む関学生のイキイキとした姿をお届けします!

## 文化総部 甲山落語研究会

設立40年以上の伝統あるクラブです。日々稽古に励み、学内、学外を問わず寄席を開催。毎年、約20人が入部し、部員数は関西で最大規模を誇っています。女子部員が多いことも特徴です。稽古日は決まっておらず、各自のスケジュールに合わせて実施。合宿は春と夏の2回です。学外での寄席は、土曜と日曜を中心にアクタ西宮で定期的に行っています。また老人ホームなどで出前寄席を行い、地域とのつながりも重視しています。大会に出場する部員も多く、これまで全国大会で好成績を残しています。



### 落語だけじゃない!?

甲山落語研究会では漫才、コント、漫談、大喜利などさまざまな笑いに挑戦しています! 取り組みの様子は、甲山落語研究会のYouTubeからご覧いただけます。「甲山落語研究会 ch」で検索!



11月24日にアクタ西宮東館6階会議室で1年生の寄席を開催。甲山落語研究会のメイン行事の一つで、部員はこの寄席を目標に全力で頑張っています。





## 代表者インタビュー

- 1 入部のきっかけ
- 2 あなたにとって甲山落語研究会とは



会長  
橋本 朗真さん(文学部3年生)  
【芸名:美月家レオン】

- 1 大学に入るまで落語はやったことがなかったけれど、新しいことを始めたいという思いで入部しました。
- 2 本当に面白い人やお笑い好きな人がたくさんいて楽しい場です。



## 取材レポート

甲山落語研究会に突撃!寄席やインタビューなどを通じて、甲山落語研究会の魅力に迫りました。ぜひご覧ください。

動画もCHECK!

↓映像はこちらから



植垣 まりなさん(教育学部3年生)  
【芸名:華乃びのこ】

- 1 西宮聖和キャンパスの教育学部所属なので、西宮上ヶ原キャンパスでクラブ活動をしたかったからです。
- 2 稽古をすればするほど、それだけの結果が伴います。大学生活の大多数のウエートを占めるものです。



練習日  
各自の自由  
活動場所  
新学生会館

三味線、太鼓などの演奏も学生主体で研究し、稽古を重ねています。新たなジャンルに挑戦することも部の目標の一つです!



## KGB総部放送局

関学大で唯一の放送団体。アナウンス、ドラマ、技術、制作、報道の5パートに分かれ、昼休みの放送、番組制作、イベント音響などさまざまな活動を行っています!興味のある人は、ホームページなどをご覧ください!

HP→<http://www.everyday-kgb.com>  
Facebook→<https://m.facebook.com/KGBbroadcast>  
Twitter→<https://twitter.com/KGBbroadcast>

## 知っておこう! 甲山落語研究会の亭号

- 1 櫻鶯亭(おうおうてい)…男子部員の亭号。「虫にまつわる芸名」がつけられる。例:櫻鶯亭 鬼六(おにろく)
- 2 五月家(さつきや)…女子部員の亭号。かな三文字の芸名がつけられる。主に長身のクールな女性が所属する。例:五月家 おんぶ
- 3 華乃(はなの)…女子部員の亭号。かな三文字の芸名がつけられる。主に小柄なかわいらしい女性が所属する。例:華乃 びのこ
- 4 美月家(みつきや)…男子部員の亭号。カタカナの芸名がつけられる。「美男」しか所属することが許されない。例:美月家 レオン
- 5 雪見亭(ゆきみてい)…男女両方の亭号。「白」にまつわる芸名がつけられる。2013年から加わった。例:雪見亭 大福(だいふく)
- 6 四笑亭(よんしょうてい)…男子部員の亭号。「笑」「楽」「丸」のいずれかを含む芸名がつけられる。「落研的エリート部員」が所属する。例:四笑亭 喜楽(きらく)

# My favorite KG



カビト ケヴィン  
CAPITO KEVINさん  
(デュッセルドルフ大学 交換留学生)  
ドイツ出身

## 日本人学生との交流や ホームステイで 日本らしさを学ぶ



←ホストファミリーと訪れた伏見稲荷大社

### — 関学大に留学した理由は。

FacebookやYouTubeで、生き生きとした学生や美しいキャンパスの様子を見て、ここで学びたいと思いました。実際に正門から見た中央芝生、時計台、甲山が並ぶ風景には感動しました。またホストファミリー制度にも引かれました。

### — ホストファミリーとの生活は。

両親と高校3年生の息子の3人家族で、何でも相談できるファミリーです。いろんな観光地に連れて行ってくれ、大阪のフグ料理店では刺身にしたフグがまだ動いていてビックリ!ドイツの食事では生魚を見る機会がないので、食文化のギャップを肌で感じました。また、日本の家庭は、お茶をよく飲みますね。健康的でいいです。ドイツの一般家庭では常にコーヒーやお酒を飲んでおり、若者はエナジードリンクを1日に何本も飲みますから。このようにファミリーには、日本らしい文化や価値観などを教えてもらっています。

### — 日本人学生と留学生が交流する コーヒーアワーに参加したとか。

コーヒーアワーは、多くの日本人と話せる楽しいひと時で、

国民性の違いも学べました。ぼくは「あの子はすてきだね」「彼とは合わないな」など、ドイツ人の感覚ではっきりと感情を口にするので、日本人に驚かれます。日本人は感情をストレートに言わないみたいですね。大学のディベートやテレビの討論番組でも同じことを感じます。ドイツ人はどんな場面でも構いなし、どんだん口を挟みますが、ドイツ流が正しいとは思いません。日本とドイツの中間がベストだと思います。

### — ドイツの大学との違いは。

落ちているごみの少なさに感動しています。ドイツの大学では教室など至る所にゴミ箱が設置されており、街も同様です。個人的な感覚だと、街中のごみ箱の数はドイツの方が日本の10倍くらい多いと思います。それでもドイツでは多くのごみが目につきます。関学はもちろん、日本全体を見てもほとんどごみが落ちていません。日本人の環境への意識の高さを感じます。



### — お国自慢をどうぞ。

シュバイネハクセ(Schweinshaxe)というローストした豚脚の伝統料理がオススメ。サクサクの皮と骨に付いたジューシーな肉は格別で、香ばしさがたまりません。また、ドイツは車好きが多く、街中のタクシーはベンツ車が多いので気軽にベンツに乗れます。何より、速度無制限道路のアウトバーンはエキサイティング!時速200km/h以上で走る車もありますよ。

### — 最後に好きな日本語を 教えてください。

「よしよし」です。日本語特有のオノマトベ語感が好きで、その中でも頭をなでる時に使用する「よしよし」は、その行動を的確に表している言葉だと思います。響きもすてきです。ドイツ語だと、「頭をなでるね」と直接的な表現しか行動を表す言葉はありません。「よしよし」を発すれば、みんな恥ずかしがらずに頭をなでることができる気がします。素晴らしい日本語の一つです。

## GO GLOBAL!

## 全て英語による授業で 聴き取る力が飛躍的に向上

春学期の英語中期留学に参加し、昨年5月から8月までマウント・アリソン大学で学びました。

現地では、「Oral Language Skills (OLS)」「Critical Thinking in English(CTIE)」「Writing」「Listening」「TOEFL」の5つの科目を履修します。授業はもちろん全て英語。間違いを気にせず、「クラスで一番発言した」と自負できるくらい積極的に取り組みました。また担当教員は長年、日本人留学生を指導しているプロばかり。日本人がよくやる英語のミスを知っているのので、的確な指導をしてくれました。

私のお気に入りにはCTIEで、教育、倫理、医療など決まった答えのないテーマについて、プレゼンや議論をします。世界情勢の動きを実感し、それについて考える力がつきました。

生活面では現地学生のパートナーが1人つき、生活や会話のサポートをしてくれます。私のパートナーは経済分野が得意で、日常の社会現象を何でも数学で分析する能力の高さには驚きました。カナダの学生はみんな勉強熱心で、良い刺激を受けましたね。パートナーは一生の友人で、今も手紙でやりとりしています。

留学を通じて、聴き取る力が飛躍的に伸びました。しかし、帰国後は英語に触れる機会が激減するので、これから本当の勝負だと考えています。継続的に英語で話す機会をつくって、力をさらに伸ばしていきたいです。



プログラムの卒業式で、クラスの代表として代表スピーチをする青木さん。5科目全てでクラス1位となり、表彰されました→

### 英語中期留学

青木 萌夏さん  
(国際学部2年生)  
派遣国▶カナダ



北アメリカ大陸





# 数字でみる 関学

関学大体育会(42クラブ)では、2015年度も多くのクラブが好成績を残しました。全国制覇、関西制覇の数を紹介します。

## 体育会の全国と関西の優勝回数



※戦績の集計は、体育会が毎年11月に開催している体育会覇業交歓に合わせて体育会学生本部が行ったもの。2015年度は2014年11月3日(前年度覇業交歓)～2015年10月21日。

### 団体4部

サッカー部、アメリカンフットボール部、自動車部、カヌー部

合計  
**4**回

## 全国制覇

### 個人3部

スケート部、ヨット部、カヌー部

合計  
**8**回



## 関西制覇

### 団体13部

サッカー部、陸上競技部、ラグビー部、ソフトテニス部、馬術部、ヨット部、卓球部、スケート部、アメリカンフットボール部、自動車部、カヌー部、合気道部、ラクロス部

合計  
**24**回

### 個人17部

庭球部、陸上競技部、スキー競技部、スケート部、水上競技部、卓球部、ソフトテニス部、馬術部、ヨット部、拳法部、フェンシング部、バドミントン部、自動車部、弓道部、射撃部、カヌー部、合気道部

合計  
**61**回



2014年度は全国制覇が団体3部合計3回、個人5部合計8回。関西制覇が団体10部合計17回、個人12部合計53回でした。15年度は前年度と比べて、合計回数が増加しています。また近年は女子選手の活躍も目立ちます。

## ちなみに10年前の2005年度は…

### 全国制覇

団体1部

合計  
**1**回

個人3部

合計  
**3**回

### 関西制覇

団体8部

合計  
**15**回

個人13部

合計  
**33**回



## UNHCR難民映画祭を開催 難民問題について理解を深める

関学大は11月25日、26日、28日の3日間、「10th UNHCR難民映画祭」を西宮上ヶ原、神戸三田両キャンパスで開催し、難民をテーマにした映画3作品を上映しました。

同映画祭は、国連難民高等弁務官（UNHCR）駐日事務所が難民問題の認識向上のために開催しています。関学大は大学パートナーズとして、スーダン、シリア、アフガニスタンの難民問題を取り扱った3作品を上映しました。企画・運営などは、難民問題を考える団体「J-FUNユースK.G.」の学生ら約10人が中心となって実施。UNHCRと難民が協力して進めている古着の回収による難民支援プログラムも会場で同時に行いました。また25日と28日は、チャンマー難民2世のテュアン シャンカイさん（総合政策学部4年



生)が映画上映後に自身の体験談を話しました。

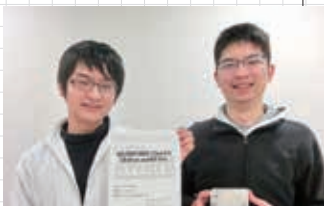
「J-FUNユースK.G.」代表の浅野健太さん（総合政策学部3年生）は、「ヨーロッパでは難民問題が深刻化しています。この映画祭と古着回収をきっかけに少しでも多くの方々に難民の問題への理解を深めてもらえたらうれしいです」と話しました。

## 理工学部の田中貴士さんらが 新感覚バトルゲームでISCA最優秀賞

理工学部人間システム工学科4年生の田中貴士さん（左）と小笠航さん（右）が11月27日、グランフロント大阪のナレッジキャピタルで開催された「International Students Creative Award (ISCA)」の国内モバイルアプリ部門で最優秀賞を受賞しました。

ISCAとは国内外の大学や大学院、専門学校の学生を対象にした国際的なクリエイティブアワード。田中さんと小笠さんはTwitterを利用した新感覚バトルゲーム“TWEETLE(ついーとる)”を制作し、見事栄冠を手に入れました。

6月から制作に取りかかり、夏休み中も試行錯誤を繰り返し完成させました。自分がフォローしている人が仲間となり、その仲



間に技の指示を出し、敵アカウント（仲間がフォローしている人からランダムで選ばれる）と対戦するというもので、技はツイート。ツイートの内容や投稿時間で威力や攻撃内容が変わります。

「Twitterではユーザー同士の仲を深く合うことはできませんが、ユーザーの幅を広げることは難しい。フォロー・フォロワーの輪を広めたいという思いから制作しました。今後は製品化に向けてブラッシュアップをするつもりです」と意気込みます。

## 21世紀学術フォーラムカンファレンスで 川西孝男さんが最優秀賞を受賞

9月20日から22日にかけて米国マサチューセッツ州のハーバード大学国際会議場（Martin Conference Center）で開催された国際会議「第3回21世紀学術フォーラムカンファレンス（3rd 21st Academic Forum Conference）」（主催21st Academic Forum）で、川西孝男さん（総合政策研究科D3年生）が最優秀賞（MDP: Most Distinguished Participant AWARD）を受賞しました。

国際会議では、欧米など世界各国から大学教授ら研究者約200人が出席し、21世紀の学術研究に関

する学際的かつ国際的な研究成果の発表を行いました。川西さんは、関西学院創始者で米国出身のウォルター・ラッセル・ランバースと、当時、米国で注目されたワーグナーの聖杯騎士伝説を題材としたオペラ「パルジファル」との関連について英語口頭発表（Title: USA and the Legend of Holy Grail's Knight: Walter Russell Lambuth as "Parsifal"）。当時の米国に聖杯騎士伝説の精神が深く根付いていたことを明らかにしたほか、ハーバード大学そして関学大の聖杯騎士伝説との関わりについて例証しました。

## 課題研究支援の一環として 理工学部が高校生対象にフォーラム

理工学部は11月21日、高校生を対象にした「SCI-TECH RESEARCH FORUM（サイテックリサーチフォーラム）2015」を開催しました。

関学大はスーパーグローバルハイスクール（SGH）の指定を受けたSGH校とSGHアソシエイト校、スーパーサイエンスハイスクール（SSH）の指定を受けたSSH校に対し、課題研究支援を中心に高大連携を行っています。同フォーラムはその取り組みの一環として初めての試み。

午前中、理工学部生と大学院生がポスターによる研究発表を行い、参加した高校生は熱心に質問を投げかけていました。午後に行われた高校生による「課題研究の中間発表」では、大



学生や大学院生、理工学部の教授陣らが高校生の発表に耳を傾け、研究に対するアドバイスや今後の展望などを話し合いました。

最後のプログラム「Sci-Tech English Café」では水木純一郎・理工学部教授による英語での講演会が行われ、参加した高校生も英語で質疑応答をするなど、高い英語力で科学技術についてディスカッションを繰り広げました。

## ショートトラックW杯で 横山大希さんが自己最高の6位

「ISUワールドカップショートトラック名古屋大会」が12月4日から6日まで、名古屋市の日本ガイシアリーナで開催され、スケート部の横山大希さん（経済学部4年生）が1500mで6位に入賞しました。

横山さんは予選から、持ち味である攻めの滑りでライバル選手を抑え、上位に食い込みます。準決勝を勝ち抜き、出場



選手47人中7人が出場できるA決勝に進出。自己初の世界6位に輝きました。





## インドネシアの2大学の学長らが 関学大を訪問し意見交換

インドネシアの国立ス  
ラバヤ大学の学長、副  
学長と国立スマラン大  
学の副学長の計3人が  
11月5日、関学大を表敬  
訪問しました。

両大学の学長、副学  
長からは、多くのインド  
ネシア人学生が日本語コース  
で学んでいることや、その語学力  
を将来の仕事に生かしたいと  
考えていること、日本の大学  
への留学に関心が高いことな  
どの説明があり、活発な意見  
交換がされました。



関学大とインドネシアの大  
学との交流の歴史は古く、「イ  
ンドネシア交流セミナー」では  
両国の多くの学生が交流を  
重ねてきました。今後も関学  
大は積極的に多くの留学生  
を受け入れていきます。

## サッカー部が全日本大学選手権初優勝 今季全タイトルを制し4冠達成

「第64回全日本大学サッ  
カー選手権大会」の決勝が  
19日、浦和駒場スタジアム  
(埼玉県)で行われ、関学大  
サッカー部が4-0で阪南大  
に勝利し、初優勝を飾りました。  
関西学生選手権大会、関西  
学生リーグ、総理大臣杯全日  
本大学トーナメントに続き、今  
季の全タイトルを獲得し、4冠  
達成となりました。

前半14分、出岡大輝選手  
(人間福祉学部3年)が先  
制弾を叩き込みます。29分、  
再び出岡選手が得点すると、



37分にはコーナーキックを米  
原祐選手(商学部3年生)が  
頭で合わせて加点。極めつき  
は前半43分、スルーパスに反  
応した出岡選手がダメ押しの一  
発を決めハットトリックを達  
成しました。守備陣も鉄壁の  
守りで、阪南大を零封しました。

## 鈴木修・経営戦略研究科教授が 日本経営学会賞論文部門を受賞

鈴木修・経営戦略研究科教  
授が日本経営学会賞論文部  
門を受賞しました。受賞論文は、  
「『活用』と『探索』のトレードオ  
フ関係の解消条件に関する研  
究—製薬産業を題材にした実  
証分析—」(日本経営学会誌第  
33号、2014年6月、千倉書房)  
です。

日本経営学会は1926年に創

立され、今年で90周年を迎える  
歴史と伝統のある学会で、現在  
会員数は約2,000人です。

鈴木教授は「経営戦略研  
究科国際経営コースでは、こうした  
理論研究の成果と実践の知恵と  
を融合したMBAプログラムを英  
語で提供しています。今後も、理  
論研究と実践との融合に貢献し  
たいと考えています」と話しました。

## CCC5年間の成果と意義を振り返る カナダと東京でフォーラム開催

関学大とカナダの3大学  
(マウント・アリソン大学、ク  
イーンズ大学、トロント大学)  
が運営している「Cross-  
Cultural College(CCC)」  
の5年間の成果と意義を振  
り返るフォーラムが11月2日  
にトロント大学のビクトリアカ  
レッジ・アルムナイホールで、  
12月4日に東京都のカナダ  
大使館で開催されました。

11月2日は、水戸考道・法  
学部教授が5年間の実績に  
ついて講演し、「CCCの修  
了生のその後を見ると、大学  
院でさらに学びを深めている  
人や企業で活躍している人  
などさまざまです。カナダの  
学生には、日本でもう一度働  
いてみたいと再び来日し活躍  
している人も少なくありませ  
ん。今後もCCCが国際交流  
プログラムのコアプログラム  
の一つであり続けるために力  
を入れていきたいです」など  
と話しました。



12月4日は、基調講演や  
学生スピーチなどの後、「若  
手グローバル人材をいかに  
育てるか」をテーマにパネル  
ディスカッションを実施。「語  
学の習得を前提とした、高い  
専門知識の必要性」「大学  
の4年間でいかに学ぶ意欲  
を高めるか」などが議論され、  
会場からは多くの質問があり  
盛り上がりを見せました。

## 羽村季之・理工学部教授が 日本学術振興会の科研費審査委員表彰

羽村季之・理工学部教授  
が日本学術振興会(JSPS)  
から平成27(2015)年度「科  
研費」審査委員の表彰を受  
賞。11月30日、西宮上ヶ原  
キャンパス学長室において村  
田治学長が羽村教授に表彰  
状と記念品を授与しました。

科学研究費助成事業を公  
正・公平に運営していくに当た  
り、審査委員の役割は非常に  
重要です。同会では、平成20  
年度から審査の公正性・公平  
性について検証し、有意義な  
審査意見を付した審査委員  
を表彰しており、今年度は約  
5,500人の第1段審査(書面  
審査)委員の中から189人が



選考されました。

羽村教授は「客観的な立  
場から適正な審査ができてい  
るということに対して評価いた  
だいた。今後、自分自身の研  
究についても客観的な視点を持  
って打ち込んでいくと同時に、  
若い研究者への指導に生  
かしていきたい」と話しました。

## 日加交流の促進に尽力 ゴードン門田氏に関西学院賞

関西学院は11月21日、西宮上ヶ原キャンパス中央講堂(125周年記念講堂)で「関西学院賞授賞式」を開催し、ゴードン門田氏(1949年関西学院中学部卒業、52年関西学院高等部卒業)に関西学院賞を授与しました。

関西学院賞は、「Mastery for Service」を体現する世界市民として著しく貢献した人々の功績を讃えるため、創立125周年を記念して2014年に創設されました。

ゴードン門田氏は、日本人のカナダへの観光開発と促進に貢献し、日本とカナダの交流を促進する多くのプロジェクトを手掛けています。現在は関学大の日加大学協働・世界市民リーダーズ育成



プログラム「Cross-Cultural College」のアドバイザリーボード委員を務め、英語中期留学プログラムや関西学院初等部の「カナダ・コミュニケーション・ツアー」での協力・支援を通じて、学生や児童とも交流があります。

ゴードン門田氏は「私には世の中のためにできることが、今後もたくさんあると感じました。受賞にふさわしい活動ができるように励んでいきます」などと話しました。

## 私立大学等改革総合支援事業に 3年連続の採択

文部科学省私立大学等改革総合支援事業において、関学大は3つのタイプに申請し全て採択されました。同事業は、教育の質的転換、産業界・他大学等との連携、グローバル化などの改革に全学的・組織的に取り組む私立大学を重点的に支援するものです。同事業における採択は3年連続となります。

関学大の申請内容は以下のとおりです。

### ▶タイプ1「教育の質的転換」

全学的な体制での教育の質的転換(学生の主体的な学修の充実等)

### ▶タイプ3「産業界・他大学等との連携」

産業界や国内の他大学等と連携した高度な教育研究

### ▶タイプ4「グローバル化」

語学教育強化、国際環境整備、地域の国際化など、多様なグローバル化

また、同事業に係る取り組みを支援する「私立大学等教育研究活性化設備整備費補助金」にも採択され、これまでに学生の自主的な学習スペースとなるラーニングコモンズ(西宮上ヶ原キャンパス)とアカデミックコモンズ(神戸三田キャンパス)を整備し、今年度はグローバルな視点での課題研究のための専門図書等の整備に活用します。



Andrew McCormick  
(アンドルー・マコーミック)

ニュージーランド出身。ラグビー元日本代表主将。2012年4月から関学大ラグビー部ヘッドコーチ。愛称はアンガス。

このコーナーでは  
アンガスが皆さんの悩みに  
お答えします!

アンガスの  
Let's TRY!

Q

子どものことが気になって  
つつい口出し。  
「子離れしてよ」と  
言われてしまいました。

## Give roots and wings

A

子離れ、親離れというのは、親にとって子どもにとっても難しいことだよ。ただ、成長のステージにおいて、子どもが自立するのはとても自然なことでもあるよね。

子育てを表した英語のフレーズに“give roots and wings”というのがあるんだ。木は、根がしっかりしていれば、栄養や水を吸収して、どんどん大きくなるだろう。それと同じように子どもにも安心や自信という根の部分が必要なんだ。時が来れば、鳥が巣から飛びたつように、羽ばたいていく。そのための翼を与えるのもまた、親の役目ということさ。

その時、親は子どもの選択や行動を尊重して、必要な時にサポートすればいいんじゃないかな。“the door is always open!” 困った時はいつでも頼っていいんだよ、って家の扉を開けておくことは忘れずにね。決して、子どもの頭の上をグルグル回って監視するような“helicopter parents”になってはいけないよ。想像してみてよ、恐ろしいだろ(笑)。

18歳といえば、外国では“young adult”だ。もう大人であり、自分のしたことに責任を取らないといけない。親も子ども、そのための準備や心構えは必要かもしれないね。ラグビーは、一度試合が始まれば、後は選手次第。監督もコーチも、口も手も出せないから、練習では戦略を持たせてどう戦えばいいかを考えさせるよ。子育てにおいても、これまで親として思いを持って関わってきたはずだ。それを振り返って自信を持って子どもを見守ってみてはどうだろう。さあ、Let's TRY!





## 3つのキャンパスで厳かに クリスマスツリー点灯式を開催

クリスマスツリー点灯式が11月30日、西宮上ヶ原、西宮聖和、神戸三田の各キャンパスで開催されました。

西宮上ヶ原キャンパスでは初等部、中学部、高等部の児童・生徒、近隣住民、教職員が中央芝生に集いました。吹

奏楽部の演奏で讃美歌を歌い、ルース・M・グロベール院長が「アドベントに覚える忍耐」と題してクリスマスメッセージを語りました。

グロベール院長と、大学、高等部、中学部、初等部の各代表が、会衆の「3、2、1」のかけ声とともに点灯ボタンを押すと、時計台の左右にあるヒマラヤスキの電球が一斉に光を放ちました。点灯の間には歓声が沸き起こりました。クリスマスツリーの点灯は、12月25日まで行われました。



## アメフト部が立命大に惜敗 関西学生リーグ2位に

「関西学生アメリカンフットボールリーグ(Div.1)」の第7節が11月22日、ヤンマースタジアム長居(大阪市)で開催され、関学大アメリカンフットボール部は立命館大に27-30で惜敗し、リーグ2位となりました。

その後、12月6日に神奈川県富士通スタジアム川崎で開催された「2015年度東西大学対抗戦」第2回 TOKYO



BOWL」に出場。日本大(関東1部TOP8準優勝)と対戦し、17-17で引き分け、両校優勝で2015シーズンを終えました。



↑2015年の全国大会で金賞を受賞した部員たち

義彦・オリックス元会長  
や宮原明・関西学院理事長、村上平一・同窓会長など多くの著名人が輩出している。

## 関学 カプセル...②8

が所属。山田耕裕をはじめ、宮内

## 関西学院グリークラブ

## KWANGAKU CAPSULE

1965年には米国で開催された「第1回世界大学合唱祭」に出場し、高い評価を得るなど、海外での演奏も行っている。近年では2006年にコンクールへの出場を再開。2015年までの10年間で全国大会に9回出場、金賞を7回受賞した。現在、120人を超える部員が所属。山田耕裕をはじめ、宮内

## 私立大学では初めて 日本貿易振興機構と協定締結

関学大は12月1日、大阪梅田キャンパスで独立行政法人日本貿易振興機構(JETRO)と包括的な連携推進に関する協定を締結しました。JETROが大学と協定を締結するのは3例目で、私立大学とは初めてとなります。

この協定は、JETROと関学大が、それぞれの持つ資源や機能等を活用して文化、産業、教育、調査研究等の分野で相互に連携し、学術研究



面、人材教育面、産学連携面等での国際的な展開を推進、日本および地域の発展と人材の育成に寄与することを目的としています。

## 地域課題の解決や人材育成を目的に 神戸新聞社と連携協定締結

関学大は12月5日、神戸クリスタルタワーで神戸新聞社と包括的な連携協定を締結しました。人口の減少や少子高齢化をはじめとする地域課題の解決やIT企業家の育成など具体的な事業推進を目的とし、連携を進めていきます。

記者会見で村田治学長は「神戸は昔からグローバルな視点で日本、世界を考えてきた地域。そんな神戸が発祥の地である神戸新聞社と関西学院大学が協定を結び双方が持つ機能や知識を生かすことで、地域に根差したグローバル化を進めていき



い」と話しました。基調講演では、村尾信尚・学長直属教授が「地域力再発見 一地域×大学×新聞社の相乗効果一」と題して話し、パネルディスカッションでは兵庫県・神戸の現状と課題について討議されました。

## 発足から117年 日本最古の男声合唱団

関西学院が創立した1889年から10年後の99年、関西学院グリークラブは当時の原田の森キャンパス(現在の神戸市灘区王子動物園周辺)で日本最古の男声合唱団として誕生した。戦時下においても地道な活動と伝統を守り続け、現在まで精力的に活動している。第2次世界大戦終了の翌年である1946年に開催された「第1回関西合唱コンクール」では大学男声部門で見事1位に輝き、最優秀賞を受賞。同コンクールの第3回の一般部では1位を獲得し、全国大会では優勝を手にした。

学院  
通信

千里国際中等部と高等部で  
全校生を前に研究発表

関西学院千里国際中等部、高等部(SIS)は11月19日、千里国際キャンパスでプレゼンテーション大会を開催しました。

プレゼンテーション大会は、SISで開講されている各教科の授業において、担当教諭が年間で最も優秀なプレゼンテーションを行った生徒を推薦し、その生徒が順番に全校生の前でプレゼンテーションを披露する行事です。今回が14回目で、17人の生徒が登場。「何故ソビエト連邦は崩壊したのか?」「Sepp Blatter and the Corruption of FIFA」など個性豊かな発表が行われました。

同日は、今年度開始のスーパーグローバルハイスクール(SGH)科目「リサーチとフィールドワーク」の中間発表も実施。受講している21人の生徒がポスター発表をしました。

「ガーナ人看護師の国際移動を低減させるためには?」をテーマに研究中の大西奈奈さん(12年生)は「調べれば調べるほどテーマについての課題が見つかり、興味が湧いてきます。発表を聞いてもらい、多くの生徒がガーナの現状に関心を持つき

っかけになればうれしいです」と話しました。生徒らは2月の最終発表に向けて、研究を続けます。

両イベントを担当した青山比呂乃司書教諭は「同世代のプレゼンテーションやポスター発表を聞くことは、生徒の良い刺激になります。生徒たちには自分の中で芽生えている研究に対する意欲を大事にもらい、今後も研究の楽しさを感じながら成長してほしいです」と話しました。



パラスポーツの普及を目指し  
(特非)STANDと連携協定締結

関学大は12月15日、東京都・サビアタワーで特定非営利活動法人STANDと連携協力に関する協定書調印式を開催しました。STANDが大学と協定を締結するのは初めてとなります。

同協定は、「Mastery for Service」をスクールモットーとする関学大と、全ての人が持てる力を発揮し誇りある自立を得るとともに明るく豊かに暮らす社会実現を目指すSTANDが、パラスポーツの普及、人材育成の分野で相互に連携を



行うものです。連携協力事業として、パラスポーツ普及を目的としたセミナーと連携講座の開講、パラスポーツにおけるリエゾンやボランティアの育成を行い、共同事業を通じて社会に貢献することを目指します。

学生有志の制作・運営により  
幻想的なプロジェクションマッピング

時計台プロジェクションマッピング2015が12月19日と20日、西宮上ヶ原キャンパスで開催され、延べ1万人が来場しました。

今回のテーマは「映像と音楽で彩るクリスマスの時計台」。関西学院聖歌隊の讃美歌に合わせて、キリストの生誕ストーリーをステンドグラスで表現した幻想的な映像をはじめ、リズムミカルな音楽に合わせたポップな映像などが投影されました。後半には、来場者が自分のスマートフォンを使って時計台に映像を投影させる仕組み「イ

ンタラクティブプロジェクションマッピング」が導入されました。

映像制作と運営は、全学から集まった約50人の学生有志が担当しました。アクティブラーニングによる一つの成果です。学生メンバーは「来場者の拍手や歓声を聞いた瞬間は本当にうれしくて、達成感を得ました」と話しました。



読者アンケート & プレゼント



関学ジャーナルのアンケートにご協力ください。ご協力いただいた方の中から抽選で40名様に「KGスターウォーズクリアファイル(いずれか1枚)」をプレゼントします。右記QRコードからアンケートにお答えください。締め切りは2016年3月29日㊤。当選は発送をもってかえさせていただきます。



※お寄せいただいた個人情報はプレゼントの発送に利用し、それ以外では利用いたしません。

◎スマートフォンおよびパソコンの方は  
URL→<http://www.kwansei.ac.jp/r/kgjournal/>より  
お答えください。

関学ジャーナルへのご意見・ご感想はWEBでも受け付けています。  
▼関学ジャーナルご意見・ご感想フォーム  
URL→<http://www.kwansei.ac.jp/form/kgjm.html>



↓リヨンで眺めるローヌ川の風景



2013年  
に 関学大博士  
課程前期課程  
を修了し、現在  
はフランス政府

「もっと話したい」「知りたい」の一心で前に進み、語学習得はもちろん、異文化と接する中で価値観の多様性を知りました。また「日本代表」という意識を持って行動するようになりました。

République française



世界の街角から

迷

った時、決断したい時、ローヌ川の水面に穏やかに浮かぶリヨンの風景を眺めます。この風景を見ていると、初心に戻り勇気が湧いてくるからです。「Bonjour」しか知らない高校3年生の時、関学大の留学案内に載っていたローヌ川の写真の美しさに出会い衝撃が走りました。国際舞台で活躍したいと漠然と夢を描いていたころでした。文学部でフランス語を専

攻し、リヨン第二大学にフランス語中期留学・交換留学しました。フランス語の奥深さに魅了され、



リヨン第二大学  
フランス政府給費留学生

西川 由里子さん  
(2011年文学部卒、  
13年文学研究科修了)

## 憧れこそ 実現の原動力 仏語教授法を 研究中

給費留学生としてリヨン第二大学でフランス語教授法の研究をしています。大学院では理論だけではなく実践に移すことが求められます。例えばテレビ電話で世界中の大学生に授業をしたり、特定の職業向けにフランス語教

材を作成したりしています。フランスで推奨されている指導法を、いかに日本に合った形に変えて導入できるかが私の課題です。また学業の傍ら、日本人の独学者向けフランス語学習書の執筆も行っています。

今の自分があるのは関学大のおかげだと思います。先生方が熱心にフランス語の魅力を伝えてくださったこと、佐伯海外留学支援奨学生に選んでいただいたことなど、感謝は尽きません。これからも「Mastery for Service」の精神で研究を続け、いつかは日本でグローバル人材の育成に携わりたいと思っています。母校が文部科学省の「スーパーグローバル大学創成支援」事業に選ばれていることは私の誇りです。関学生の皆さんにはこの恵まれた環境を生かし、世界市民を目指してほしいと思います。

### 協定校紹介 République française



#### リヨン政治学院

Lyon Institute of Political Studies

1948年にリヨン第二大学の連携校として設立されたフランス独自の高度専門職養成機関(グランゼコール)で、フランスに10校ある政治学院の一つです。政治・経済の分野を主としながら人文・社会科学系などの授業も幅広く行われており、英語で開講されているプログラムもあります。また、グローバル教育にも力を入れており、約150の海外の大学・機関と提携し、年間約200人の留学生を世界中から受け入れています。

関学大とは2006年に学生交換協定を結んで以来、盛んに学生交換を行っています。関学大と学生交換協定を締結しているフランスの大学は、他にもリヨン第二大学、リール第一大学、ノルマンディー・ビジネススクールがあります。



大学図書館ホームページでは、WEBデータベースや図書館活用術など、幅広い情報を分かりやすく紹介しています。教職員の最新情報も随時更新。「関西学院大学図書館」で検索！

大学図書館の旬な情報をお届け

# Libraring



## 勉強だけでなく旅行の計画にもお役立ち！

「大学図書館って難しいしか置いていない!」と思いませんか? いいえ、そんなことはありません。西宮上ヶ原キャンパス大学図書館、神戸三田キャンパス図書メディア館には、学生の皆さんが気軽に読める本や雑誌を取りそろえたコーナーがあります。

さまざまなジャンルの本の中でも人気ののが旅行ガイド。夏休みなど長期休暇には「地球の歩き方」や「るるぶ」など、国内外の観光スポットを紹介したものが多く借りられています。他にも関西を中心とするグルメスポットを紹介したものや、テーマパークガイドも数多く置いています。旅行やレジャーのお供に、ぜひ活用してください。



↑西宮上ヶ原キャンパス大学図書館の2階ラウンジ

場所 ▶ 西宮上ヶ原キャンパス大学図書館：2階ラウンジ ▶ 神戸三田キャンパス図書メディア館：2階ブラウジング雑誌、4階ブラウジング図書

## 教職員の新刊

### W・R・ランバスの使命と関西学院の鉱脈

神田健次 神学部教授著  
関西学院大学出版会

### 数の物語表現と知識

金田茂裕 教育学部准教授著  
ナカニシヤ出版

### デジタル・スタディーズ【第3巻】メディア都市

阿部潔 社会学部教授・ガブリエレ・ハード 准教授分担執筆  
東京大学出版会

### 原発避難白書

災害復興制度研究所共編  
人文書院

### ジョージ・S・スカイラーの世界

廣瀬典生 生物学部教授編訳・著  
関西学院大学出版会

### To Learn How to Teach English With Practical Classroom Activities

大喜多喜夫 教職教育研究センター教授著  
関西学院大学出版会

### 国際機構論【総合編】

望月康恵 法学部教授共編著、吉村祥子 国際学部教授分担執筆  
国際書院

### テレワーク導入による生産性向上戦略

古川靖洋 総合政策学部教授著  
千倉書房

### だれが幸運をつかむのか 昔話に描かれた「贈与」の秘密

山泰幸 人間福祉学部教授著  
ちくまプリマー新書

### 新多国籍企業経営管理論

藤澤武史 商学部教授共編著  
文真堂

### 英国チャリティ その変容と日本への示唆

岡本仁宏 法学部教授共著  
弘文堂



### 日本のイノベーションのジレンマ 破壊的イノベーターになるための7つのステップ



イノベーションという言葉を聞かない日はありませんが、正しく理解している人は多くはないでしょう。本書では、日本企業も過去にはイノベーターだったことを振り返り、次に、優良企業でも打ち負かされる「破壊的イノベーション」について分かりやすく解説しています。またテレビ、携帯電話、カメラにおいて、今まさに破壊されつつある日本企業について分析し、最後に破壊的イノベーターになるにはどうすればよいかをステップ・バイ・ステップで学んでいきます。

玉田 俊平太・経営戦略研究科教授著 304ページ 翔泳社

### 子どもの社会性を育む積極的生徒指導

生徒指導は教科指導と並んで学校教育を支える重要な機能です。本書では、現在の子どもの社会性の「育ちそびれ」が、生徒指導上の諸問題の一要因であると捉え、問題行動を再生産させないという視点から学校に必要な人間性の教育について論じています。また、特別活動が積極的な生徒指導であること、教育臨床事例、朝の読書と生徒指導等、義務教育段階の教師に不可欠な生徒指導の具体的なイメージを把握できるように構成されています。



中村 豊・教育学部教授著 160ページ 学事出版



だから、明日のことまで思い悩むな。明日のことは明日自らが思い悩む。その日の苦勞は、その日だけで十分である。

マタイによる福音書6章34節

大学の広報誌に載せる聖句として、イエスのこの有名な言葉は「そぐわない」だろうか。本学に勤めて17年目になるが、日本社会が若者たちに「明日のことを思い悩ませる」傾向をどんどん強める中で、大学もそれと連動して、学生たちに「不安定な将来のために、今、最大限の努力をするように」という教育を押し進めてきたことは否めない事実なので、ふとそんな疑問を抱いた。

もちろん、将来のために今努力するのは大切だし、大学がそれを推奨するのも当然だろう。しかし、これが過剰になった社会を、哲学者の鷲田清一が「前傾姿勢の社会」と呼んだように、「明日のための今日」としてしか今を生きられなくなると、人間は慢性的な不安と不満の中ですっかり日々を過ごせなくなってしまう。実際に生きて体験できる時間はすべて「今／今日」であるのに、それを「明日を思い悩む」だけの時としてしまい、十分に味わい、楽しむことができなくなってしまうからだ。

イエスの福音の中心であるこの言葉は、今を今として生き抜く自由へと私たちを招く。「今が楽しければそれでいい」という刹那主義ではない。それは、今というこの瞬間を、不安と恐れの時ではなく、感謝と喜びの時にしていくことへの招き。そして、明日への信頼と期待の内に、今をそこにつないでいくことへの招きである。新しい年、関西学院大学に連なる私たちが、イエスによって示されたこの信頼の道を歩み出したい。

編集後記

特集に登場してくれた学生は、活動の魅力はもちろん、苦勞話も明るく語ってくれた。また「次年度もやりたい」「他の学生にもおすすめるしたい」と笑顔で口をそろえる。メンバーと力を合わせてやり切ったことが、大きな自信につながったんだと感じた。今後も実践型教育に挑戦してもらおう学生が増えればと思う。(よこ)

KG☆グルメ

神戸屋 関学店 (西宮上ヶ原キャンパス)

チキンカツサンドイッチ

**新** 学生会館にある神戸屋のチキンカツサンドイッチは、分厚いチキンカツがレタスと一緒に挟まれており、ボリューム満点！味はもちろん、チキンカツ、レタス、パン全てがサクサクで食感も楽しめる一品です。ポテトがついて550円！コーヒーなど飲み物と一緒に味わってみてください。素敵な午後のひと時を過ごせますよ。



# 関西学院のWEBコンテンツ 多言語で情報発信中!

## WEBサイト

日本語、英語、中国語(簡体字、繁体字)、韓国語でWEBサイトを開設しています。またスマートフォンや携帯電話からは、モバイルサイトで気軽にアクセスが可能です。



## f Facebook

日本語と英語で開設。関西学院に関するニュース、学生や教職員の研究や活動、キャンパス風景、食堂のグルメ情報など内容盛りだくさん。ぜひ「いいね!」してください。



◀日本語版



◀英語版

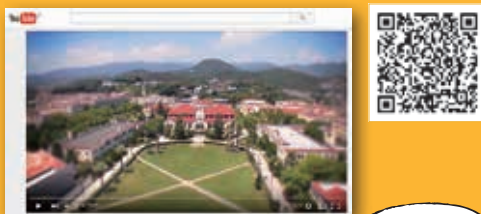
## Twitter

関西学院のニュースを随時発信しています。



## YouTube

学生や教職員のキャンパスライフを紹介したインタビュー動画「KG FACES」をはじめ、授業、講演会、行事、スポーツ、125周年記念動画など関西学院の今を映像で紹介しています。英語、中国語(簡体字、繁体字)、韓国語にも対応しています。



おすすめの  
動画シリーズ

## KGU Research in 60 seconds

関西学院大学の教員が研究やその魅力について、1分台で分かりやすく紹介するシリーズです。



## in LinkedIn

関西学院大学に関する情報を英語で配信しています。ビジネスに興味のある方におすすめです。

